

障害児をもつ母親の障害受容に関する研究

「発達的な観点から見た療育指導の在りかたに関する研究」

広川 律子

要約；障害の早期発見・治療の場である療育施設において、障害児の子育てに心理的に困難を有する家族が見うけられる。親の離婚、経済的理由による養育困難や親の精神疾患などは従来より存在する問題であるが、最近では児の問題として極小未熟児や多胎で出生した障害児、超重度児、親の側の問題としては単親家庭、若年出産、親自身の障害、虐待など障害児の育児をめぐる新しい状況が発生している。また、早期治療における専門性の確立と普及とともに過剰な訓練や教育への期待感が母子関係を損なっている事態も見受けられる。本研究では、我が子の障害受容についてその過程と問題点を明らかにすることを目的に、肢体不自由児施設の措置児・退園児の母親に対して質問紙による調査を実施することを計画した。

見出し語；障害受容・ 母親・ 質問紙

研究方法；

方法

肢体不自由児通園施設の措置児及び卒園児母親に対して質問紙による調査を実施する。

初年度（平成7年）は、質問紙の項目を作成し、第2年度は調査を実施し、第3年度は調査のまとめをする予定である。

対象

南大阪療育園の措置児と退園児の母親約200名にたいして質問紙による調査を実施する。

調査内容がプライベートな面に及ぶため、対象者を限定した（年齢3-18才）。

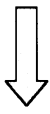
＜ 質問項目の概要 ＞

- 1 児の障害の原因
- 2 障害告知をした人
- 3 障害告知時の気持ち、行動
- 4 障害受容が困難である（あった）理由
- 5 障害受容の契機となった出来事
- 6 児の療育における主な相談相手（過去、現在）

愛徳福祉会・南大阪療育園 心理

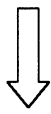
Dep. of Psychology, Minami-Osaka Ryoikuen Hospital for Disabled Children.

- | | | | |
|----|----------------------|----|---------------------------------------|
| 7 | 児の療育をめぐる夫や家人の協力または確執 | 12 | 障害児をもつことによって生じた自分自身の変化 |
| 8 | 児を含む兄弟関係の問題 | 13 | 障害児をもつことによって生じた家族関係の変化（夫、両親、親戚、友人、隣人） |
| 10 | 児または兄弟への虐待の有無（父、母） | 14 | 障害児をもつことによって生じた人生設計の変更の受容について |
| 11 | 母親自身のストレス時の対処法・相談相手 | | |



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約;障害の早期発見・治療の場である療育施設において、障害児の子育てに心理的に困難を有する家族が見つけられる。親の離婚、経済的理由による養育困難や親の精神疾患などは従来より存在する問題であるが、最近では児の問題として極小未熟児や多胎で出生した障害児、超重度児、親の側の問題としては単親家庭、若年出産、親自身の障害、虐待など障害児の育児をめぐる新しい状況が発生している。また、早期治療における専門性の確立と普及とともに過剰な訓練や教育への期待感が母子関係を損なっている事態も見受けられる。本研究では、我が子の障害受容についてその過程と問題点を明らかにすることを目的に、肢体不自由児施設の措置児・退園児の母親に対して質問紙による調査を実施することを計画した。